

二〇二四年度 桐朋女子中学校入学試験 (A入試)

筆記試験 (国語)

受 験 番 号

氏 名

【注意】

- 一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。
- 二、問題冊子は1ページから14ページまであります。
- 三、「はじめてください」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。
- 四、答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 五、問題冊子に書きこみをしてかまいません。
- 六、「やめてください」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。
- 七、試験時間は四五分間です。

一、次の①～⑮の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。また、⑩～⑳の——線部の読みをひらがなで答えなさい。

- | | |
|-----------------|---------------|
| ① 困難をダハする | ② 美しいガイロジュが並ぶ |
| ③ センモン分野を研究する | ④ 客がサットウする |
| ⑤ ヒニクをこめて言い返す | ⑥ プロのセンレイを受ける |
| ⑦ 危険をサッチする | ⑧ トウシンダイの主人公 |
| ⑨ 犯人がジシユする | ⑩ シツギ応答を行う |
| ⑪ 新番組のセンデンをする | ⑫ 彼はキンベンな学生だ |
| ⑬ 取りあつかう商品のイチラン | ⑭ トラックでユソウする |
| ⑮ 神社でおフダをもらう | ⑯ 春の兆しを感じる |
| ⑰ 遠くはなれた祖国を思う | ⑱ 山並みが夕日に映える |
| ⑲ ものの道理を説く | ⑳ 海底の油田を開発する |

二、次の文章一・二は、食品ロス（食べることでできる食品が捨てられること）についての文章です。これを読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある問いに答える場合は、「、」「や」「。」「などの記号も一字と数えます。

一

二〇一九年度の日本における食品ロスの発生量は、実に五七〇万トンにも達します。どれくらいの量

か想像できるでしょうか？ 日本国内で一年間に生産される米の量が七〇〇万トン前後です。それに匹敵する量のまだ食べられる食料が捨てられているのです。五七〇万トンという数字をアフリカゾウで換算してみましよう。大人のゾウの重さは平均で約六トンになります。「A」アフリカゾウ約一〇〇万頭分に当たります。

アフリカゾウ一〇〇万頭分が日本一国の食品ロスの分量となっているのですから、驚くばかりです。国の計算によると二〇〇〇年の食品ロスは、九七八万トンあったとされますが、その後二〇年ほどかけて五七〇万トン前後まで減らすことができました。きっかけは、二〇〇一年に施行された「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律」（食品リサイクル法）です。この法律によって、食品廃棄物発生の抑制および減量化、再生利用などが事業者の間で促進されたのです。

【B】二〇一二年ごろから食品ロスの減少は足踏みを始めます（* 図4）。事業系だけでなく、家庭系の食品ロスも似たような状況です。政府は、二〇三〇年までに、二〇〇〇年度の発生量の五〇％にあたる四八九万トンにまで減少させるという目標を掲げています。それには、あと一〇〇万トン近く減らさなくてはなりません。容易なことではありません。

【C】、意識ある企業や個人が頑張るだけではもう限界に近くなっているからです。この国に住む全員で協力し合って減らさなければ、この目標は達成することができないのです。

食品関連の企業の側でも、様々な努力をしていますが、ある企業の方は「^①乾いた雑巾をしぼるようだ」と言っていました。「D」、会社のなかだけでは、もう削減することが難しくなってきました。ある企業では、できるだけ消費者に迷惑をかけないように、大量に商品を作っているといえます。もし消費者が、^②少しの工夫と我慢ができれば食品ロスはさらに多く減らせる可能性があることがわかります。

たとえば牛乳を買う時に、すぐに飲んでしまうのならば、日付の古いものから買って構わないわけです。もし日付の新しいものばかりが売れてしまうと、古い商品は捨てられてしまします。このように売れ残りを作らない工夫をすることで、食品ロスを減らすことができます。

また、買いたいと思っていた食品が品切れになっていても、違う商品で代替することは可能です。むしろ新しい味やメニューに出会える！と思えば、わくわくしてきませんか？在庫がないことにクレームをつけるのではなく、どんな工夫ができるかを考えるほうがずっとずっと楽しいはずですし、この行動によって食品ロス削減はよりスムーズに進むでしょう。

工夫といえば、家族でレストランに行った時にもできることはあります。どんなことだと思いますか？注文する時のことを思い出してみてください。皆さんはまず「食べたいメニュー（種類）」だけを考えて注文していませんか？そうではなくて「食べ切れる量」について考えながら注文すれば、食べ残しを防げると思いませんか？量の多いメニューを注文する時には、一緒に行った人と分け合うという発想をもっともいいでしょう。レストランの食べ残しは、食品ロスの発生場所としては飲食店にカウントされていきますが、実は食品ロスを生み出しているのは消費者でもあるのです。このように食べ残しの削減には、客として来店している皆さんの協力が不可欠なのです。

【E】この半減目標をクリアできれば、そのあとには、さらに食品ロスを減らせる可能性もみえてきます。究極的にはゼロにするということもできるかもしれません。しかし残念ながら、今はまだそんな段階にはないというのが、日本の置かれている状況です。まずは二〇三〇年までにどうやって大量の食品ロスを減らしていけるか。鍵になるのは私たち消費者のさらなる行動ではないでしょうか。もちろん、すでに工夫や努力をしている方々もいることは承知しています。ですから、個人の努力の先まで見据えて、ここからは誰もが取り組める解決策を考えていきます。

食品リサイクル法により、廃棄物等の発生抑制、再生利用などが義務付けられ、関連する事業者や企業の取り組みは大きく前進した、と先ほどお話ししました。食品ロス削減のため世界に先駆けてよいスタートを日本は切りましたが、しかし企業ができることは限界に近づいており、むしろ私たち消費者の工夫や実践じっせんなどが求められる段階にきています。一方でSDGsへの取り組みが世界各地で活発になり、国、自治体、個人など、様々なレベルで食品ロス削減のために何ができるかを、より一層考える必要がでてきました。

そんななか二〇一九年五月に「食品ロスの削減の推進に関する法律」(食品ロス削減推進法)が成立しました。この法律では、食品リサイクル法のように、対象を企業だけに限定することをやめ、すべての人々が協力し合いながら、食品ロスの削減に取り組む必要があると定められました。そして、この法律では皆さんが住んでいる都道府県や市町村単位での「食品ロス削減推進計画」の策定を求めています。また、消費者である私たちにかかわることも多く記されています。

なぜなら先述したとおり、企業の取り組みだけではもはや限界であり、地域の消費者である私たち、私たちが所属する場(家庭、学校など)、さらに④地域全体の協力がなければこれ以上の削減が難しくなってきたからです。

たとえば、余った食材を近所の気の合う仲間を持ち寄り、みんなで料理をして、楽しく食べる会を開いてはどうでしょう。それぞれが考案したレシピを基もとに、自分だけでは思いつかない”普段と違った食材の楽しみ方”を実感することができるかもしれません。

余った食材を、「子ども食堂」に配布しようという活動も活発になっています。子ども食堂は、全国に六〇一四カ所あるといわれています(「こども食堂全国箇所数調査」二〇二一年一〇〜一二月)。「共同飲

食の機会の確保」「貧困の子どもたちへ満足な食事の提供」の二つを大きな運営の目的とする地域の活動です。そこに食品ロスになる前の食品を提供しようというのです。私もお手伝いしたことがありますがお菓子などを箱詰めにして配布した時の子どもたちの笑顔は、今でも忘れられません。

また、地域の取り組みには皆さんのような生徒や学生が大活躍しています。沖縄の若者らのボランティア団体の間では、家庭で余っている食料を集めて*生活困窮者などに届ける「フードドライブ」という活動の輪が広がっています。毎回四、五十人の高校生ボランティアが参加し、一〇〇〇点近い食品を集めて生活困窮者支援に役立てています。愛知県の大学生は、このフードドライブによりコロナ禍で困窮している外国人留学生の支援を進めています。神奈川県の子供高生ボランティアは、湘南地区の飲食店一〇〇軒に「食べ残し持ち帰り推進ステッカー」(* 図5)を貼ってもらい、食べ残しを持ち帰るよう地域的な*啓蒙活動を行っています。

このような活動は、日本中で一斉に取り組むことは難しくても、皆さんが住んでいる地域の特徴を生かしながら進めることができれば、地域全体の意識を高められるかもしれません。観光地を除けば、多くのお店には地域のお客さんが来店し、それぞれに文化や人とのつながりを作っています。(中略)

アジアに目を向けると、「中国人は味で食べ、^⑤日本人は目で食べ、韓国人は腹で食べる」といわれ、たとえば韓国では、食べきれないほどの食事でもてなしをするのが文化として認められてきました。

食べものに対する地域ごとの価値観、つまり食文化に応じて食品ロス削減の方法は違ってくるでしょう。地域によってやりやすいこともあれば、やりにくいこともきつとあるはずですが、もし環境問題として食品ロス対策をする場合は、とにかくたくさんの食品ロスが出ているところから減らしていくのが近道かもしれません。一方で、皆さんが参加しながら食品ロス削減を進める時には、それぞれの食文化や地域性に配慮しながら、地域単位で活動するほうが多様な社会においては合理的なこともあります。

いよいよ地域で、皆さんの活躍する力を必要とする時が来たといえそうです。

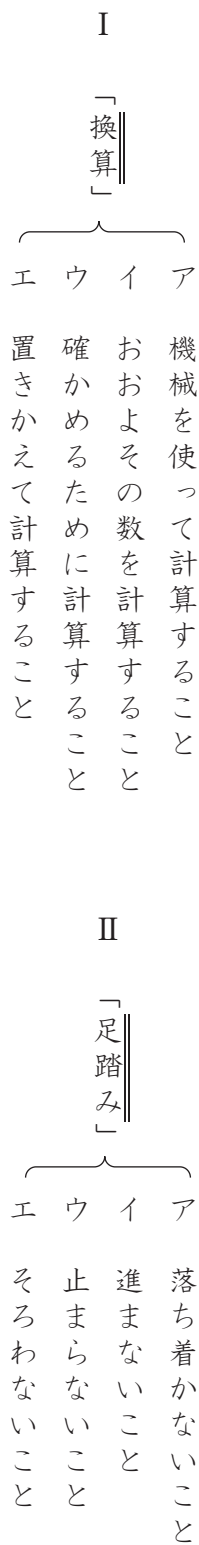
(小林富雄『食品ロスはなぜ減らないの?』岩波書店)

* 図4・図5は省略。

* 生活困窮者——貧しくて生活に困っている人。

* 啓蒙——正しい知識をあたえ、教え導くこと。

問一、——線部Ⅰ「換算」・Ⅱ「足踏み」のここでの意味として最も適切なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。



問二、本文中の空らん「 」A〜Eに入る語句として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上答えてはいけません。

ア なげなら イ つまり ウ もし エ しかし オ したがって

問三、——線部①「乾いた雑巾」とありますが、「乾いた雑巾」とは、何がどのような状態であること
を表していますか。文末が「く状態であること」につながる形になるように二十五字以内で答えなさい。

問四、——線部②「少しの工夫と我慢」とありますが、本文中で挙げられている「工夫と我慢」の例を四つ、それぞれ二十字以上三十字以内で答えなさい。

問い五、——線部③「食品ロスの削減の推進に関する法律」とありますが、筆者が述べているこの法律の中心となる考え方はどのようなものですか。文末が「く」という考え方」につながる形になるように本文中から三十字以上三十五字以内で探し、はじめと終わりの五字をぬき出して答えなさい。

問い六、——線部④「地域全体の協力」とありますが、本文中で挙げられている「協力」の例を四つ、それぞれ簡潔に答えなさい。

問い七、——線部⑤「日本人は目で食べ」とありますが、「目で食べ」とはどういうことを表していますか。二十字以内で答えなさい。

問い八、二の文章の中で、筆者は食品ロスの削減の方法をいくつか挙げていますが、どのようなことがけるとやりやすくなると述べていますか。文末が「くこと」につながる形になるように本文中から三十字以内で探し、はじめと終わりの五字をぬき出して答えなさい。

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある問いに答える場合は、「、」「や」「」などの記号も一字と数えます。

「ぶーさん、具合はどう？」

少し照れ臭い気持ちで声を掛ける。

狭いケージの中は、中に砂が入ったプラスチックの猫用トイレが広さの半分以上を占めていた。

そのトイレに寄りかかるようにして、ぶーさんはうとうととしていたようだった。

数日前の手術の直後は、麻酔が残ってぐったりしている状態で点滴に繋がれていた。

その頃に比べると、ほんの数日ですぐにぶん体調が良さそうだ。目ヤニはまだ少しだけあるが、涙はす

っかり止まっていつもの元気なぶーさんの顔だ。

ぶーさんは意志のはっきり籠こもった目で明日香あすかをまっすぐに見て、ああお前か、という顔をした。

「ぶーさん、あのね」

飼い主さんが見つかるかもしれないよ、と言おうとして言葉が続かなかった。

ぶーさんがゆっくり回って、明日香に向かってお腹を見せてくれたからだ。

明日香に出会えたのが嬉うれしくてたまらなくて、甘あまえているわけではない。

とても面倒めんどうくさそうな動きだった。

なんだお前、どうしたんだ。しょうがないな、触さわらせてやるぞ。

そんな、心優やさしくて面倒見めんどうみがよくて猛烈もうれつにかわいい、オジサン猫の低い声が聞こえてくるような気が

した。

明日香は鉄格子てつごうしの隙間すきまから指を入れて、ぶーさんのお腹を触った。ぶーさんはすかさず目を細めてぐ

るぐると喉のどを鳴らす。

なぜか「ごめんね」という言葉が、何度も何度も胸の中で溢あふれた。

その日の夜になっても、飼い主さん候補こうほからのメールの返事は来なかった。

「ああ、駄目だめ駄目。うちはペットは禁止ですよ」

* 大家おおやさんは話の途中とちゆうから《 X 》を三角形とがに尖とがらせて、強い口調で明日香の言葉を遮さえぎった。

「そのこのブロック塀べいの上で、いつも寝ねていたあの子なんです。黒と茶色の……」

明日香が飼おうとしている猫がああぶーさんだと知れば、もしかしたら大家さんも少しは理解してくるかもしれない。

この几帳面な大家さんがもしも猫嫌いだったら、あつという間にぶーさんのことを追いかけていたはずだ。

大家さんは明日香がここへ引っ越してくるずっと前から、ぶーさんにブロック塀の上を貸してあげることを黙認していたに違いない。

思ったとおり、① 大家さんの眉がぴくりと動いた。

「たぶん車に撥ねられて怪我をして、食事もできないで弱っていたところだったんです。動物病院で手術はしましたが、うまく歩けなくなるから野良猫としては暮らしていけないって言われたんです」

まずは情に訴えてみよう。

明日香は精一杯悲し気な声を出した。

「お断りです」

大家さんは明日香の懇願を、「A」撥ねのけた。

ならば今度は、絶対に大家さんにも他の住人にも迷惑を掛けない、と信じてもらわなくてはいけない。「高齢の猫なので、鳴くことはほとんどありません。動きもゆっくりなので、走りまわって音を立てることもないと思います」

背筋を「B」伸ばして、両手を祈るように前で組んだ。

「駄目です」

「爪とぎをさせないように柱や襖にシートを張ります。トイレもきちんと清潔にして部屋を汚したりはしません」

「なおも追い続った。」

「いけません。ペットを飼うなら、すぐにこの部屋から出ていってください」

最初から最後まで、大家さんは I 取り付く島もなかった。

自分が契約に違反した無茶なことを言っているとわかっているのに、なぜか泣きそうなくらい悲しくなる。この大家さんは命なんてどうでもいいと思っっているんだ、と、見当違いな恨みがましい気持ちになっってくる。

そしてもうひとりの私の声が聞こえる。

大家さんは何も悪くない。悪いのは私だ。

ぶーさんの優しさやかわいさや温かさが大好きで。ぶーさんに辛い思いをさせたくないとかから思っているのに。幸せにしてあげたいと思っっているのに。

まだどこかで大きな責任から逃げようとしている私だ。

ぶーさんごめんね、ぶーさんがかわいそう、なんて言いながら。少しもぶーさんの人生を受け止める覚悟ができていない私だ。

私はあのときのままだ。

ほんとうはまだこの仕事を続けたかった。私はまだまだできた。でも身体を壊してしまったから仕方なく、なんて自分に言い訳をして、逃げるように仕事を辞めたときのままだ。

自分の人生を受け止める覚悟ができていないままだ。

大事なぶーさんのことを、顔も名前も知らない誰かにあっさり押し付けようとしたときのままだ。これで《 Y 》の荷が下りる、とほっとしたときのままだ。

私はどうしようもない甘ったれた。

「わかりました。部屋を出ます。無茶を言っごめんなさい、お世話になりました」
一言一言、ゆっくり静かに口に出した。

引越し費用はいったいいくらかかるんだろうと思ったら「C」した。きっと元から決して多くない貯金額の、ほとんどすべてが飛んで行ってしまっただろう。

でも同時に、②すつと胸に風が通った気がした。もう、やるしかないのだ。

こちらに向かつてごろんと身体を倒してお腹を見せるぶーさんの姿が、脳裏に浮かんだ。ぶーさんの飼い主はこの私しかないのだ。

私は、これから先ずっとぶーさんの優しい顔とあったかい毛並みと一緒に過ごすことができる。働かなくちゃ。ちゃんとしっかり働かなくちゃ。

心から思った。

お腹の底から、むくむく力が湧いてくるのがわかった。

「……うちのアパートは、入居のときに * 敷金を貰っていないでしょう」

しばらく黙ってから、大家さんが「D」言った。

「えっ？」

「ペット飼育の場合は、敷金家賃二ヶ月分を入れてもらいましょうか。退去時にそこからクリーニング費用を払ってもらいます」

③ 大家さんが膨れっ面を浮かべる子供のような顔をした。

「いいんですか？ ありがとうございます！」

勢いよく頭を下げたら、胸の中で、ちゃりん、とお金の音がした。

家賃二ヶ月分の敷金。それも、おそらく退去時にはまず戻ってこない。

鳥肌が立って身震いしそうになる。けれどそれでいいのだ、と自分の力強い声が聞こえた。

優しさや同情では命は救えない。命にはお金がかかるのだ。自分以外の誰かの命を預かるということは、その命のためにちゃんと働き、きちんとお金を稼かせぎ、稼いだお金を使いまくらなくてはいけない。

ぶーさんと暮らすには、④ そんなちっとも心の躍おどらない最低条件を満たさなくてはいけないのだ。
こうしちゃいられない。

II 一目散に* A T Mに走り、その日のうちに家賃二ヶ月分を大家さんに手渡てわたした。

大通り沿いのホームセンターに行つて、猫用のトイレと砂、餌えさと水を入れるポウル、爪とぎの板、スキの形のおもちゃ、など、山のような買い物をして戻つてきた。

ちゃりん、ちゃりん、とお金の音が鳴り続けた。

お金がなくなつていくのは怖こわかった。けれど同時に、どんどん身体が軽くなるような気もした。

私なんて何もできないに違ちがひない、という情けない思いに、ざぶんと冷たい水を掛けられたような気がした。

何を言っているんだ、やらなくちゃいけないんだよ。ぶーさんと暮らすためには、きちんと働かなくちゃいけないだよ。もう一度自分の足で立って、歩かなくちゃいけないんだよ。

明日香は自分に言い聞かせるように、何度も何度も心の中で呟つぶやき続けた。

(泉ゆたか『君をおくる』光文社)

* 大家——貸家の持ち主。家主。

* 敷金——家やアパートなどを借りるとき、家主にあずける保証金。

* A T M——現金を預けたり、引き出したりする機械。

問い一、本文中の空らん《 》 X・Yには体の一部分を指す語が入ります。適切な語をそれぞれ答え

なさい。ひらがなでもかまいません。

問い二、本文中の空らん「 」AとDに入れるのに最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上答えてはいけません。

ア　ぞくりと　　イ　びしゃりと　　ウ　ずしりと　　エ　しゃんと　　オ　ぼつんと

問い三、 線部I「取り付く島もなかった」・II「一目散に」のここでの意味として最も適切なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

I 「 取り付く島もなかった」

ア　全く何の役にも立たなかった
イ　全く相手にしてくれなかった
ウ　全く深く考えようとしなかった
エ　全く信用してくれなかった

II 「 一目散に」

ア　あっという間に
イ　あわてふためいて
ウ　わき目もふらずに
エ　ちらっと見ながら

問い四、 線部①「大家さんの眉がびくりと動いた」とありますが、なぜですか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　ペット禁止のルールを理解してもらえなくて、頭にきたから。

イ　プロック塀の上で猫が寝ていたことを知って、おどろいたから。

ウ　自分がよく知っている猫だと聞いて、心がゆれたから。

エ　本当は猫好きであることを見すかされて、あわてたから。

問い五、——線部②「すつと胸に風が通った気がした」とありますが、どういう様子を表していますか。

三十字前後で答えなさい。

問い六、——線部③「大家さんが膨れっ面を浮かべる子供のよな顔をした」とありますが、ここから

どのような気持ちを読み取れますか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 明日香の熱意におされて、仕方なく受け入れようと思っている。

イ 明日香の熱意に感動して、言う通りにしたいと思っている。

ウ 明日香の熱意にいらだち、無茶を言って困らせようと思っている。

エ 明日香の熱意にあきれて、話を終わらせたいと思っている。

問い七、——線部④「そんなちつとも心の躍らない最低条件」とありますが、それはどのような条件で

すか。文末が「く」という条件」につながる形になるように本文中から四十字以内で探し、はじめと終わりの五字をぬき出して答えなさい。

問い八、明日香はぶーさんと暮らす準備をする中で、自分自身についてどのように考えるようになったと思われませんか。変化が分かるように五十字以内で答えなさい。

